

## 日本における Web パスファインダーの実態調査

大塚 千陽

本研究では、日本の市町村立図書館が提供している Web パスファインダーの提供状況・内容について網羅的な調査を行い、現状や課題を明らかにした。検索エンジンや集積サイトを用いて 115 の図書館から 2493 件の Web パスファインダーを収集し、パスファインダー自体の名称、パスファインダーの一覧ページの名称、「パスファインダー」という用語の解説の有無、パスファインダーで扱っているテーマ、掲載されている情報源の種類、パスファインダーの対象年齢の設定、一年以内の更新の有無について調査し、集計を行った。名称は「パスファインダー」という単語を含むものが多く、用語の解説もなされていることが多かった。パスファインダーで扱っているテーマには大きく偏りがあり、各図書館で地域に固有のテーマが多く作成されていることが分かった。情報源については図書や参考図書、インターネット上の情報源を多く掲載している図書館が多く、対象年齢は設定していないパスファインダーが半数を超えた。調査を行ったページのうち約 51%が一年以内に更新されており、活発に Web パスファインダーの作成が行われていることも明らかになった。また、各図書館における貸出数、参考業務受付数と、パスファインダーの作成数の相関を調査したところ、いずれも強い相関は見られなかった。

今回の調査結果を踏まえると、これから Web パスファインダーが発展するためには、図書館によって名称が異なっても利用者が容易に Web パスファインダーを収集できるように集積サイトを作ること、利用者がそれぞれの調査能力に応じた資料を手間なく探せるようにパスファインダーに対象年齢を設定すること、利用者の視野を広げるためにひとつのパスファインダーにより多様な種類の情報源を掲載することが有効であると考えられる。今後の研究では、Web パスファインダーの作成者にインタビュー調査を行い、作成者視点における現状や課題を検討することや、政令指定都市立図書館の Web パスファインダーの最新の状況を調査し、県立図書館や市町村立図書館と比較を行うことが期待される。

(指導教員 池内 淳)